

## 実践報告

## 札幌市立上篠路中学校

### (1) 研究内容

研究課題：子どもの権利に関わる学習活動に関する研究

「不登校やいじめは、子どもの人間関係に起因していることが多い。これらを改善するため、自我が形成される時期となる中学校生活において、自己肯定感や有用感を持ち、行動できる子どもの育成」

### (2) 実践の内容

【実践①】子ども相互の成長を求めた実践～ピアサポートを活用した取組～

#### ○ ねらい

ピアサポートの目的や意義について理解し、学校生活における日常場面において、お互いを思いやり、助け合い、支え合える人間関係に考え、行動できるようにする。

#### ○ 内容

##### ● 道徳

- |      |      |          |                    |
|------|------|----------|--------------------|
| 1 学期 | 1 学年 | 4 月 30 日 | 「ピアサポート～心のハート」     |
|      | 2 学年 | 4 月 17 日 | 「ピアサポート～心のハート」     |
|      | 3 学年 | 4 月 9 日  | 「ピアサポート～心のハート」     |
| 3 学期 | 1 学年 | 2 月 29 日 | 「ピアサポート～怒りの感情を知ろう」 |
|      | 2 学年 | 2 月 29 日 | 「ピアサポート～問題を解決しよう」  |

##### ● 教室移動（1 学年）

1 学年は 4 学級であるが、3 学級が同じ棟に、1 学級のみが別棟にある。孤立した環境に位置する子どもに対して、社会的学習や集団規範の効果があらわれにくい。そのことから、教室配置を移動させ、全ての子どもが他者との関わりの中で子ども相互がモデリングしながら成長していく環境を築くことで子ども相互の道徳性や規範意識の向上を目指した。

##### ● 委員会活動

保健常任委員会活動において「やればできるよ応急手当」のテーマのもと、「『きず』について 手当の方法」、「覚えておこう！RICE 打撲やねんざの応急手当」、「緊急時の対応を学ぼう」をパンフレットにまとめ、自助・共助の観点から全校集会で発表した。



## 【実践②】外部からの支援による実践～2学年 道徳「いのちの学習」～

### ○ねらい

中学2年生を対象として、産婦人科医より「人間関係としての性に関する適切な行動について考え、男女の望ましい人間関係を理解させる。また、男女が互いに理解を深め、人格を尊重する心情を育む。



### ○ 学習内容

札幌市の産婦人科医及び助産師による講師派遣事業の支援も受け、学年集会形式にて次の点について産婦人科医より講演をしていただいた。

- ・ 性行為、妊娠、出産に関する話（昨年、誕生学の講演を聞いている。）
- ・ 出産の現場から産婦人科医からのメッセージ
- ・ 自分の身を守るために大切なこと

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・ ピアサポートの考え方を活用した「道徳」に取り組み、5年が経過している。2年次から人権教育推進事業に参加し、取組を充実させてきた。ピアサポートトレーナー養成講習会にも参加する機会を得ることもでき、教諭の研鑽を重ねることができた。
- ・ 子ども同士のコミュニケーション能力を高め、委員会活動においても自己肯定感や自己有用感を充実させることができた。
- ・ 「命の大切」の観点から講演会をもち、男女の望ましい人間関係を培うことができた。

#### ② 課題

- ・ ピアサポートを活用して実践をしているが、学活、特別活動及び学習活動での研究を行い、自己肯定感や自己有用感を高めなければならない。
- ・ 望ましいコミュニケーション能力の身に付けさせ、望ましい人間関係の構築を目指したため、これまでの実践を生かして指導計画を充実させる必要がある。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 人権教育に関する教育活動を実践しているが、集団生活において自他を理解することが人権教育の基礎になると考えている。『自分のことを伝える活動』、『他者のことを理解する活動』を取り入れ、子どもがコミュニケーションスキルを身に付けることにより他者への理解が高まると考える。また、「ピアサポート」に限らずこれらのスキルの一つを絞って研修と実践を推進するのがよい。
- ・ 実際の教育課程においては、道徳や特別活動と関連付けた取組が中心となるので、それらの担当者も含めた推進組織を作って機能させ研修を進めることが重要である。